

沙免ふさい物と方うらはすうかう以年沙汰して  
減りよめと思つて居ます

沙枝さましく、ゆえをや、沙枝子何と嫌しく

存じます。考せも豆などけも末どえくとめて居

ります。一因もえをやでさう日本も漸く食料が

状もあつて成り思ひお話し成りまじし。さてソ解の

偉大なる迄まで世界もあつて言を、訳先づ米玉

も引けまじらぬと大馬力で、おまじせうあり

次に、お情うしく、事が出ると、米もあつて

全々思ひまじらぬ。何せに、せうも、さうも、さうも

明治代、せうも、我も、我年毎、我年して、思ひは

は、破目、落入り、まじらぬ、苦難の体位、さうすれ

が人類、全部、我年、我年、及、及、及、及、及、及

行、行、行、行、行、行、行、行、行、行、行、行、行、行

成つて欲ふ中心の事、  
此の如く信じて、我日本が武力を捨てたのを  
見越して、不意に朝鮮が、  
を仕向し、米の少く、  
付、軍備する程、  
思ふに、現代戦争も、  
さう、全く、  
うと、  
ら、  
う、  
か、  
い、  
で、

武田一家の標

の  
コクヨ